

平成 24 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 自然に恵まれた教育環境のもと、確かな学力、豊かな心、社会性を身につけた生徒を育成するために組織的な取り組みを行い、生徒の夢と志を実現できる、地域に信頼され誇りとされる学校をめざす！
- 1

生徒の一人ひとりに確かな学力と豊かな心、社会性を育成する。
- 2

生徒の多様な可能性・ニーズに応える教育課程を編成するとともに、音楽専門コース等を充実し進路を実現する。
- 3

きめ細かな指導により生徒一人ひとりの良さを引き出し、生命と人権を尊重した教育活動を展開する。
- 4

地域環境を活かし、保護者・地域と共に歩み、組織的な教育活動を行う開かれた学校づくりを行う。

2 中期的目標

- 1

確かな学力と社会性の育成
- (1)

生活習慣・学習習慣の形成の徹底をはかる。
ア 遅刻指導、頭髪・服装指導、授業規律指導、携帯電話指導、バス乗車指導、マナー指導等に関して組織的に取り組み、統一したきめこまかな指導を行う。
※生徒懲戒件数を毎年2～3％ずつ削減し、平成26年度には平成23年度比で10％減にする。(第1学年を除く)
※遅刻延べ回数の合計を毎年2～3％ずつ削減し、平成26年度には平成23年度比で10％減にする。
※中退率を毎年2～3％ずつ削減し、平成26年度には平成23年度比で10％減にする。
- (2)

「わかる授業、充実した授業」をめざして、授業改善に組織的に取り組む。
ア 少人数授業、科目指導内容の充実を行い「興味・関心を引く授業」「わかる授業」を工夫し、基礎学力の向上に取り組む。
イ 教科主任等を中心に各教科における授業研究を推進し、授業改善に取り組む。
※生徒による授業評価での授業満足度（自身の積極的な取り組み）を毎年2～3％ずつ引き上げ、平成26年度には全学年・全科目で70％以上にする。
※学年末の成績不振による原級留置者を毎年2～3％ずつ減少させ、平成26年度には平成23年度比で10％減にする。
- (3)

学校行事や部活動をととして生徒の自主性・社会性を育成する。
ア 体育祭・文化祭などの学校行事に工夫を凝らし、生徒の自主的かつ積極的な参加を促す。
イ 新入生の部活動への勧誘を工夫し体験入部期間などを設けることにより、部活動への積極的な参加を促す。
※生徒の学校行事への満足度を常に80％以上とする。
※新入生の部活動入部率を毎年50％以上とし、平成26年度には全学年での入部率も50％以上とする。
- 2

夢と志を持つ生徒の育成をめざし学校の特色づくりを推進
- (1)

音楽専門コースの充実を計画的に行う。
ア 音楽専門コースならびに生徒のキャリア教育などにも利用できる施設・設備等について計画的に充実を図る。
イ 高大連携等を強化して外部講師等の活用を図り、より専門的な知識・技能の習得を図る。
ウ 音楽専門コース発表会や外部との連携を深め、発表や活動の場を確保する。また、音楽系部活動との連動した活動も促進する。
※生徒による授業評価での授業満足度（自身の積極的な取り組み）を音楽専門コースを含め、全科目で80％を越えるようにする。
※音楽専門コース選択生を毎年2～3％ずつ増加させ、平成26年度には平成23年度比で2・3年生とも10％増とする。
- (2)

「夢チャレンジ!」を合言葉に、卒業時の進路未定者ゼロをめざしたきめ細かい進路指導を行う。
ア 進路指導ノート等の活用を図り1年時より3年間を見通したキャリア教育を計画的に実施する。
イ キャリアカウンセリング体制を充実し、一人ひとりの生徒が抱える進路の問題を解決できる組織的指導体制を作る。
ウ インターンシップについて希望者全員が希望する場所に行けるように受け入れ先を確保し、また、より多くの希望者を募る。
※卒業時の進路未定者を毎年減少させ（平成22年度2.2%）平成26年度には1％とする。また毎年就職内定率95％以上を維持する。
※インターンシップ受け入れ先を毎年60人以上分確保する。また参加者希望者を毎年2～3％ずつ増やし、平成26年度には卒業までに2割以上の生徒が参加するように拡大する。
- (3)

「総合的な学習の時間」及びLHR等の時間を活用し、「志学」とキャリア教育、人権教育等の指導計画を確立する。
ア 3年間を見通した教育計画とするために実施と分析、改善を行う。
イ 平成23年度の新1年生から計画し、検証しながら、平成25年度に計画を完成する。
※平成24年度中に各学年の年間計画を完成する。平成26年度には、計画に従って学年体制で実施細案を具体化し実施する。
- (4)

中期計画推進費によって整備された視聴覚教室の活用を図る。
ア 音楽専門コース生や吹奏楽部、弦楽部、コーラス部などの練習・発表の場として利用し、活動の活性化を図る。
イ キャリア教育をはじめ、学年、クラス、グループでの活動の場として活用し、生徒の自己実現をめざす活動の場として利用する。
ウ 学校説明会などの広報活動、地域との連携活動などにも広く活用し、学校理解を促進する。
※視聴覚教室を毎日利用し、年間を通しての利用率も高める。活動内容の充実度を内容やアンケートなどにより検証する。
- 3

生徒理解の促進と教育相談体制の充実
- (1)

多様な生徒の生活、生育、心の発達に伴う不安や悩み等を把握し適切に指導する。
ア 外部の諸機関とも連携し教育相談機能の一層の充実発展を図る。教育相談（SC）の活用、外部機関（教育センター・子供家庭センター・支援学校など）との連携体制、校内でのケース会議を適宜開催し、学年団と外部機関との連携を強化する。
イ 教育相談委員会により指導の必要な生徒等について状況を把握し、必要に応じて人権教育推進委員会・支援委員会とも連携しながら、適切な指導・助言を行なえるようにする。
※不登校生徒（長期欠席者）を毎年2～3％ずつ減少させ、平成26年度には平成23年度比で10％減とする。
- 4

保護者及び地域連携、校種間連携を強化し、開かれた学校づくりを推進
- (1)

地域や地域の学校、施設との連携活動を促進し、地域への貢献度を高める。
ア 既存の連携活動をさらに充実させるとともに、地域との連携活動の拡大を図る。
イ 生徒・保護者への周知・理解を促進し、より多くの生徒の自主的参加を募る。
※活動参加者を毎年2～3％ずつ増加させる。平成26年度以降常に延べ100人以上の参加を確保する。
- (2)

様々な活動をととして保護者の学校教育への参画を促す。
ア 公開授業などへの積極的参加を促す。
イ PTA活動の充実を図る。
※保護者懇談会を除いての公開授業や学校行事、PTA活動への参加者を毎年2～3％ずつ増加させ、平成26年度には10％増とする。
- (3)

学校の取り組みを積極的に発信し、学校理解を促進する。
ア 中学校訪問や学校説明会などの広報活動を強化する。
※常に入学者募集定員を満たす生徒数を獲得する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会における提言内容】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成２４年１２月実施分〕	学校協議会における提言内容
【学習活動等】 ・授業に関して、生徒で肯定的意見が「分かりやすく楽しい」41.3%、「教え方に工夫をしている先生が多い」が41.2%。しかし、教員は「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」97.7%、「この学校では少人数指導を取り入れるなど、指導方法の工夫・改善に努めている」97.5%と、かなりの認識の違いがある。教員が授業に関してさまざまな工夫をしているにもかかわらず、なかなか効果が上がっていないという学習上の困難性が伺える。しかし教員も「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている」65・9%とやや取り組みの不足を感じており、この点での改善が今後の課題である 【生徒指導等】 ・教育相談に関して、生徒は「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」56.7%と肯定的な意見が多く、教員の「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」90.3%という回答の多さと一致しており、教育相談体制の充実が伺える ・「先生は協力して生徒指導に当たっている」58.6%と感じている生徒が多く、教員も「生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」95.1%、「さまざまな問題行動の防止のための早期指導に学校全体で取り組んでいる」85.1%と取り組みの充実を感じているが、一方で生徒の「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」43.6%と肯定的意見の方がやや少なくなっている。本校での生徒指導が生徒に受け入れられていて、もっと厳しい指導でもいいと感じているのかもしれない 【学校運営】 ・学校行事は、生徒の「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」57.1%や「修学旅行は楽しく行えるよう工夫されている」66.5%と満足度は高いが、「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」47.4%とやや低い。生徒数の減少が盛り上がり欠ける原因と考えられるが、体育祭同様さらに工夫を重ねる必要がある。「部活動に積極的に取り組んでいる」46.2%もやや低く、同様に活動の活性化に努めなければならない ・教員の校内研修については、「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」82.9%、「校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている」90.0%と充実しているが、「研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている」41.1%と低く、今後職員会議の場などを利用して研修報告の機会を工夫する	第１回学校協議会（６／22） ○音楽専門コースについて ・入学生が減るなど、大阪音楽大学と問題点が共通している。本校からの大阪音大への入学生もかつての２ケタから３～４名に減っている。卒業生との連携を大切にして、活性化に結び付けてはどうか ○地域連携について ・地域の小・中学生が激減している。その中で小・中・高の合同のフレンドリーコンサートは意義があるが、生徒数の減少や資金難から過渡期にさしかかっている。あり方の検討が必要である ・隣の友星幼稚園には、池北からインターンシップを経験した生徒が、後に教員となって３名いる。インターンシップ制度を大切にし、生徒の進路に役立てていく。また密に連携していくことが大切である ○入試問題について ・府立高校の文理科の設置や私学の授業料無償化により、中学生の進路に大きな影響を与えている。入試の混乱がある。今後どうなるのか ○創立30周年について ・創立30周年を機に、その記念事業で子どものための教育支援を考えていく 第２回学校協議会（11／５） ○インターネット上の差別事象について ・インターネット上の書き込みなどのチェックも必要ではないか ○音楽施設の安全対策について ・防音室（練習室）について緊急時の安全対策について検討する ○学校の活性化について ・生徒減少に伴う、学校行事や部活動、授業での工夫を図る ○遅刻対策について ・遅刻する生徒が学校イメージの低下にもつながる。対策の強化を図る 第３回学校協議会（２／18） ○学校経営について ・しっかりとした教育理念を確立して、長期的なビジョンが必要である ○学習活動について ・生徒の質が大きく変化しているが、教員の意識も改革して現実的な対応が必要である ○学校の特色づくりについて ・音楽専門コースの特色を生かして、音楽大学との連携をさらに強化する ・音楽だけでなくスポーツの活性化も図る ・クラブで頑張れる環境を整備する ○学校広報活動について ・音楽専門コースの取り組みは素晴らしいが、もっとPR活動が必要である ○教育制度・社会情勢の変化について ・制度改革が早すぎて実態が伴っていない違和感がある ・政治・経済の変化が生徒の進路に大きな影響を与えている

府立池田北高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力と社会性の育成	（１）生活習慣・学習習慣の形成 ア 遅刻指導・授業規律に関しての組織的な取り組み （２）「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善 イ 教科等による授業研究・授業改善 （３）学校行事や部活動の充実 ウ 体育祭・文化祭などの学校行事の工夫 エ 新入生の部活動への勧誘強化	（１） ア・日頃の遅刻指導も強化し、回数に応じたし指導を徹底する。また、前年度から始めた考査前の遅刻指導強化週間での指導も徹底し、相乗的効果をねらう。 ・授業に入る際の準備等の指導を徹底する。 （２） イ・年２回の公開授業週間を利用してすべての教科で研究授業を行う。 ・年２回の生徒による授業アンケートを行い、授業の状況、生徒の反応等を分析・把握し、それをもとに各教員が授業の改善を検討し、実施する。 ・平成 25 年度実施の新教育課程を確定する。 （３） ウ・生徒状況の変化に対応した行事の内容や実施方法の検討を行う。 エ・平成 23 年度から取り入れた新入生に対する全員参加の体験入部期間を延長し、新入生の入部率を高める。	（１） ア・遅刻総数を毎年 2～3％削減(平成 22 年度 11714 回) （２） イ・生徒による授業評価での「授業への積極的な取り組み」を毎年 2～3％ずつ引き上げ、平成 26 年度には全学年・全科目で 7 0％（平成 23 年度 9／79 が 7 0％以下） （３） ウ・生徒の学校行事への満足度を全学年 6 5％、平均 7 0％（平成 23 年度 1 年 59.2％、2 年 65.4％、3 年 66％、平均 64.3％） エ・新入生の部活動入部率を毎年 5 0％以上（平成 23 年度 4 7. 7％）	ア 1 人当たりの遅刻回数は全体で 3 ％減少したが、これは 2 年生が 2 4％と昨年より大幅に減少したためで、一方 1 年生は 2 6. 6％と大幅に増加し、3 年生はほぼ横ばいの 1. 5％増となった。子どもたちの生活環境の悪化が影響していることが考えられる。教育相談との連携、指導の徹底を図る（○） イ 年 2 回公開授業週間を設けているが、保護者の参加がほとんどない。これまでの案内メールに加え、今後ホームページの活用も進める。第 2 回アンケートで「授業への積極的な取り組み」は全体で 79.8％、前年より 0.4％増であった。7 0％以下の科目数は 7／80 であった。今後さらに授業研究ならびに研修を推進する（○） ウ 学校教育自己診断では、「楽しく工夫されている」が文化祭 47.4％、体育祭 57.1％、修学旅行 66.5％であった。行事直後の満足度は、それぞれ 20％ほど高い。（◎）※前年とアンケート内容の変更あり エ 年度当初の体験入部期間 1 週間を 1 年生全員参加とした。2 学期にも再入部を生徒会、各部で勧めた。しかし、男子は 50％を越えたが、女子は 35.4％、平均にとどまった。経済状況の悪化からアルバイトが増えている。両立の方法を検討する（△）
2 学校の特色づくりを推進	（１）音楽専門コースの充実 ア 高大連携等を強化して外部講師等の活用促進 イ 音楽専門コース発表や活動の場を確保 （２）未定者ゼロをめざしたきめ細かい進路指導 ウ 3 年間を見通したキャリア教育の計画的実施 エ キャリアカウンセリング体制の充実 オ インターンシップへの参加者増加 （３）中期計画推進費による視聴覚教室の活用 カ 音楽専門コースの活性化やキャリア教育の場として活用促進	（１） ア・専門コースにおける専門性を高めるために、大阪音楽大学を中心に連携を強化し、外部講師の活用を図る。 イ・音楽専門コースの発表会をはじめ、部活動とも連携して多くの発表の場を確保することにより、生徒の優れた能力の開発の場とする。 （２） ウ・3 年間の進路指導計画に沿って、キャリア教育支援事業を活用し、進路指導ノート、職業体験、体験談講演会、模擬授業などをとおして、望ましい職業観・勤労観を養う。 エ・就職希望者に対して、キャリアカウンセラーなどの専門家による就職指導や外部講師による面接指導をとおして企業が求める人材について理解させ、社会人としての自覚を持たせる。 オ・学校設定科目「チャレンジタイム」におけるインターンシップへの参加を勧める。 （３） カ・音楽専門コース生や吹奏楽部、弦楽部、コーラス部などの練習・発表の場として利用し、活動の活性化を図る ・学年、クラス、グループでの活動の場として生徒のキャリア教育に役立てる ・学校説明会などの広報活動、地域との連携活動などにも広く活用する	（１） ア・講師による講座に関するアンケートでの満足度 8 0％ イ・発表会について生徒アンケートでの満足度 8 0％ （２） ウ・卒業時の進路未定者を 1 0 人以下 エ・就職内定率 9 5％ ・キャリアカウンセラーや外部講師の活用回数、活用状況 オ・インターンシップへの参加者 2～3％増（平成 23 年度 2 9 人） ・カ・毎日利用し、行事等の年間の利用率も指標とする。活動内容の充実度を内容やアンケートなどにより検証する（cf. H23 年度までデータなし）	ア 音楽大学教員によるパーカッション、ユーフォonium、箏の講座を実施したが、毎回ほとんどの生徒が「よかった」と高い評価をしている。外部講師の活用を引き続き図る（◎） イ 地域との連携のフレンドリーコンサートや音楽専門コース発表会は特に 1 0 0％近い満足度を示しており外部からも高い評価を得ている。経費の問題もあるが、工夫して継続・発展を図りたい（◎） ウ 進路未定者は 1 0 人以下となる見込みである。経済状況から進学をあきらめる生徒がいる。奨学金などの周知に早くから取り組む（◎） エ 社会情勢を受けて就職希望者が 5 3 人と急増したが、3 月現在 3 名のみが結果待ちだが、全員確定の見込みである。優秀なキャリアカウンセラーやコーディネーターを確保でき、昨年以上の充実した取り組みができた。次年度は生徒の出席状況や学力の問題への取り組みが必要（◎） オ インターンシップ参加者は生徒数の割合での参加率は昨年並みだが、1・3 年生が増えた。次年度も特に保育・看護希望者の参加を促す（◎） カ 昨年度整備された視聴覚教室は、視聴覚機材や空調設備も導入され、格段に利用しやすくなった。そのため今年度は特に学年での利用が昨年に比べて格段に増加した。また、地域との連携活動のフレンドリーコンサートに向けての練習では、空調の完備が大きな威力を発揮し、夏の暑い時期や冬の本番直前の合同練習など効率的な練習ができた。利用が促進された反面、利用予約が重なったりしたこともあり、パソコンによる予約ページも整備した。今後も活用を促進したい（◎）
3 開かれた学校づくりを推進	（１）地域との連携活動を促進 ア 既存の連携活動のさらに充実と拡大 イ より多くの生徒の自主的参加拡大 （２）情報発信 ウ 中学校訪問や学校説明会などの広報活動の充実	（１） ア・地域の幼・保・小・中をはじめ地域コミュニティや福祉施設などとの交流活動を推進し、生徒の学びの場とするとともに、地域貢献をとおして本校への学校理解を促進する。 イ・学校設定科目「チャレンジタイム」におけるボランティア活動への参加を勧める。 （２） ウ・中学校へ訪問しての学校案内を充実させるとともに、直接中学生への説明機会を増やす。また、学校説明会の時期・内容を大幅に変更して、参加者の拡大を図るなどして、入学生確保に努める。	（１） ア・既存の活動内容の充実と連携活動の新規開拓 イ・ボランティア参加者を昨年度より 2～3％増加、延べ 8 0 人以上の参加 （２） ウ・学校説明会への参加者を平成 23 年度の 1.5 倍	ア 今年も地域との交流活動を積極的におこなっており参加者が増えた活動もあるが、新規の活動は特になかった。今後も新規活動を含めて活動の推進を図る（○） イ 特産物販売所や伏尾台夏まつりの模擬店などのボランティアは昨年以上の生徒の参加があったが、小学校での学習支援など日程の調整ができなかったこともあり、全体としては減少した。生徒への周知の徹底を図る（○） ウ 今年は新たに夏休み中に池田市民文化会館で音楽専門コース説明会・ワポイントクリニックと学校での説明会・部活動体験を実施した。さらに 11 月・12 月と学校での説明会を追加して実施した。参加者は昨年より若干増えた。開催時期の検討を行うとともに、周知の方法をホームページ上で工夫する（○）